

学校名	唐津市立東唐津小学校
授業者	1年担任 梶山桂子

## 1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

### 1-1. 単元名

なつとなかよし

### 1-2. 学年

1年

### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

生活科 図工科 道徳科 学級活動

### 1-4. 単元の概要

学校や遊び場などでの活動を通して、子どもたちは学校生活にも慣れ、友達や先生、学校の周りの自然と意欲的に関わろうとするようになってきた。自分の周りの友達への関心も増し、友達と一緒に遊んだり活動したりすることを好む児童が増えている。遊びについては、幼稚園や保育園で、季節の自然素材や身近な物を使って遊ぶ経験をしており、物を作ることを好む児童は多い。表現活動については、個人差はあるものの、みんなの前で話すことにも少しずつ慣れてきた。

本単元では、子どもたちが学校やその周り、また東の浜などで季節の変化を感じると共に、思う存分夏にひたって友達と一緒に遊んだり、楽しい遊びを工夫したり物を作ったりできるようにしていきたい。ここでの活動の体験から生まれる子どもたちの感動や気づきを大切にしながら単元を展開したい。小単元3までは一学期に終わっているので、小単元4では、一学期の学習を思い出しながら、自分たちが拾ってきた貝がらを使って自分たちの生活を楽しくするものを考え工夫しながら創作活動に取り組めると考える。ここでの試行錯誤する経験は、「あきとなかよし」でのおもちゃ作りの際にも生かされると考える。また、本校で取り組むSDGsの目標14「海の豊かさを守ろう」にも少なからず関わることができるのではないかと考える。

一学期に小単元3までは終わっている。今回は小単元4に取り組むことにした。前回（小単元3）から随分間があいているので、導入では、一学期の活動の様子の写真を見ながら、がんばったことや楽しかったことなどを自由に話させながら、東の浜で遊んだことやゴミ拾いをしたこと、貝がらを拾ったことなどを思い出させたい。十分に思い出したうえで改めて自分たちが拾ってきたたくさんの貝がらを提示し、「きれいな貝がら、どうしたい？」と、児童に投げかけたい。いろいろな種類の貝がらを見ながら、自分たちやみんなが楽しくなるようなものにはどんなものがあるのか、どのように変身させたいか、そのためにはどんな道具や材料がいるのか…など、1年生なりに自分たちで自由に意見を出し合い考えながら取り組ませたい。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

身近な自然（東の浜）を観察したり、東の浜の自然に触れたり、みんなと仲良く楽しく工夫しながら夏の遊びを楽しんだりする活動を通して、生活科や図工科、道徳科学級活動の学習を関連付けた授業実践を行えば、児童一人ひとりが自分たちの生活する身近な地域の自然に触れ、自然と関わり唐津市の宝である「東の浜」を守っていこうとする心を育てると共に、地域を誇りに思い大切にすることで、自分たちに出ることに楽しく取り組めるようになるだろう。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- (1) 身近な自然を観察したり、夏の遊びを楽しんだりする活動を通して、東の浜の自然の素晴らしさに気付く力 【関心・意欲・態度】
- (2) 唐津市の宝である東の浜を守るために自分たちのできることを考える力 【思考力・判断力】
- (3) 拾ってきた貝がらを使って自分たちの生活を楽しくするものを作り表現する力 【表現力】

1-7. 単元の展開（全 15 時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
2	<p><b>「なつ」は、どんな季節かな？</b></p> <p>・「食べ物」、「植物」、「生きもの」、「自然」「行事」、「遊び」など、さまざまな角度から・・・</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「なつ」といえばどんなものが思い浮かぶかについて出し合いながら「なつ」について関心を持たせる。</li> <li>・一番子どもたちの関心の高かった『うみ』について学習を広げていく計画を立てる。</li> </ul>
4	<p><b>東の浜にいってみよう!!</b></p> <p>①東の浜の自然で遊ぶ活動 ②ボランティア活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に東の浜に出かけ、しばらく散策しながら海や砂浜の様子を見てまわる。</li> <li>・それぞれの「お気に入りの場所」をさがし、紹介し合う。</li> <li>・東の浜で、どんなことができそうかをみんなで出し合い、まとめる。</li> </ul>
6	<p><b>東の浜で遊ぼう!!</b></p> <p>海に中での遊び…波跳び・もぐりっこ 砂浜での遊び…海ほり・砂山作り・お城作り 貝がら拾い・トンネル作り ボランティア活動…プラスチックゴミ拾い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園や保育園での体験したことをもとに、海や砂浜でできる遊びを考える。</li> <li>・子どもたちから出された意見を大きく3つに分け、3回に分けて実施する。</li> <li>・浜遊びは、2年生と合同で実施する。</li> </ul>
3	<p><b>遊んだことを伝え合おう（こんなことしたよ）</b></p> <p>・遊んだことや拾ってきた貝がらで作ったものについて、発表したり紹介し合ったりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の写真をしながら、楽しかったことや工夫したこと頑張ったことなどを自由に話させる。</li> <li>・貝殻で作った作品は、1人ずつ友達の前で紹介し、感想交流をする。</li> <li>・夏場だけでなく、今後もゴミ拾いを続けていくことを再確認する。</li> </ul>

## 2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目



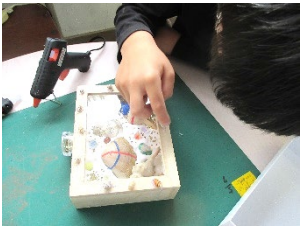
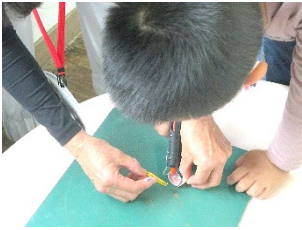

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 2-2. 本時の目標

自分で考えて見立てたり、友達と相談したりしながら、貝がらを使った置き物やアクセサリ、小物などを工夫してつくることができる。

【思考・表現】

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<p>1. 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>貝がらを たのしいもの・すてきなものに へんしんさせよう!!</p> </div>	<p>○前時までの活動を写真で想起させ、自分たちが拾ってきた貝がらを使って楽しいものに変身させることに目を向けさせる。</p> <p>【思・表】[発言分析]</p> <p>○自分が作ってみたいものをみんなに話すことで、本時の自分のめあてを明確にさせる。</p> <p>【思・表】[発言分析]</p>
<p>2. 拾ってきた貝がらが、もっとすてきになるように、もっと楽しくなるように、いろいろとアイデアを出しながら工夫して作る。</p>    	<p>○児童がいろいろなアイデアを出しやすいように、「貝がらコーナー」「材料コーナー」「道具コーナー」などを分けて設置しておく。</p> <p>【態】[行動観察]</p> <p>○友達が作っているところを見ながら作業できるように、机の配置を工夫する。</p> <p>【思・判・表】[行動観察]</p> <p>○思い通りいかなくて何度もやり直ししながら作っている姿を称賛したり対話することで、作品を作るポイントを促していく。</p> <p>【態】[行動観察]</p> <p>○作業が滞っている児童には、寄り添い思いや願いを尋ね、参考になる友達を紹介したり教師がアイデアを出したり手助けしたりするなど、個に応じて支援をする。</p>
<p>◆自分で考えて見立てたり、友達と相談しながら、貝がらを使った置き物やアクセサリ、小物などを工夫して作っている。</p> <p>【思考・表現】(発言・つぶやき・作品)</p>	

3. 活動を振り返り、感想を発表する。



4. 次の活動の見通しを持つ。

○「がんばったこと」、「工夫したこと」、「うまくできなかったこと」、「楽しかったこと」など、児童自身の言葉で振り返らせる。

【思・表】[発言分析]

○お互いの頑張りを褒め合った後、次時は、自分たちが作ったものを紹介し合うことを知らせる。

3. 今回の活動の自己評価

- ・本校は、学校のすぐ近くに日本三大松原の一つである「虹ノ松原」や白砂青松の「東の浜」があるという恵まれた場所に立地している。そのため、授業の導入段階から何度も現地に足を運び、実際に東の浜を見たり散策したりするうちに、子どもたちの中から様々な気づきや疑問や感想が生まれてきた。それらを教師と共に学級全体で分類・整理しながら小単位ごとの学習問題を作ることができた。つまり、導入時に『子どもの学びに火をつける』ことができ、途中で飽きることなく単元の最後まで学習意欲が継続でき主体的な学びにつながったと思う。
- ・生活科の時間だけでなく、図工科、道徳科、特別活動等とつなげながら取り組むという教科横断的な発想でのカリキュラムの調整を図ったため、それぞれの教科で学んだ知識や技能等を活用することができ、思考力、判断力、表現力等を育むと共に、主体的に学習に取り組む態度を養うことができた。その結果、子どもたちの学びの充実につなげることができたと思う。
- ・東の浜では、ゴミだけでなくたくさんの貝がらも拾ってきた。『自分たちが拾ってきた貝がらをみんなが喜ぶような楽しいものやすてきなものに変身させよう』という学習が一番盛り上がった。回を重ねるごとに子どもたちの発想も豊かになり、アイデアいっぱいの作品になっていった。もっとたくさんの種類の貝がらが欲しいと台風の後の浜に出かけては、バケツいっぱいの貝がらを拾い集めてきた。これらの貝がらは、生活科だけでなく図工科での立体作品制作にもたくさん使われた。自分たちが拾ってきた貝がらがいろいろなもの役立てられ、子ども達も大満足であった。
- ・4月の春の遠足で全校で唐津城に行った帰りに、みんなで東の浜のゴミ拾いをしたことが、1年生にとっての初めてのボランティア活動だった。たくさんのゴミに驚いたようだ。このことが頭に残っていたのか、5月に生活科で東の浜に出かけた時も、子どもたちから「ゴミがたくさん落ちていたから、みんなで拾ってきれいにしたいね。」と、意欲的にゴミを拾っていた。ボランティア清掃への意識が高まり、その後も子どもたちの意向で数回にわたりゴミ拾いを実施した。
- ・7月には2年生と一緒に、波跳び、もぐりっこ、砂山や、お城、トンネル作り、貝がら拾いなどの「浜遊び」をして楽しんだ。浜での遊びがより一層広がった。
- ・6月には、網元さんのお世話で「ヒラメの稚魚の放流」をしたり、8月には、プロバスケットチーム「バルナーズ」の選手の人たちと一緒に東の浜の清掃活動をしたりと、いろいろな人たちが東の浜や海を守るために頑張っていることを再確認しながら協働的な学習を経験できた。
- ・1学期の間は、学活や道徳の時間を活用して1年生の発達段階に応じてSDGsについて学習を重ねた。(本校が力を入れている目標14を中心に) 特に子どもたちは、死んでしまったイルカのお腹の中にプラスチックごみが入っていたことや、2030年には魚の数より海洋ゴミの方が多くなるということが心に残ったようで、「ゴミを出さない・捨てないようにしたい」とか、「海岸(砂浜)のプラスチックごみをたくさん拾いたい」という気持ちがより強くなり、清掃活動に意欲的に取り組めるようになった。

#### 4. 今後の課題

- ・導入時に何回も現地に足を運んだのはよいが、教師側が予想していたよりも多くの時間がかかり（児童の実態により）、当初の単元計画（時間）が変動しやすかった。
- ・生活科の学習は校外での体験学習が多いため天候に左右されることが多く、計画を変更することが多くなることも課題の一つである。天気の間隔予報を参考に計画を立てる事が大切になってくる。
- ・コロナ禍のため、地域との関わりの機会が制限されたことが残念だった。
- ・まだまだ教師主導的な面が多い。各教科等で学んだ知識や技能を活用することによって、思考力、判断力、表現力等を育むと共に主体的に学習に取り組む態度を養い、多様な人々との協働を促す教育の充実に努めるためにも、生活科や総合的な学習の時間等を中心に、カリキュラム・マネジメントを進めることが課題だと思う。

#### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・特にありません。

#### ※貝殻を使った「立体作品」



※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書\_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書\_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。